

# 兵庫区(三菱電機) 初優勝!

## 第33回 神戸市総合体育大会

第33回神戸市総合体育大会サッカーの部は、10月7日より、熱戦の火ぶたが切られて来た。本年度は準決勝以降の試合が、完成したばかりの神戸総合運動公園補助グラウンドの真新しい芝生の上で行われることもあって、接戦の試合が多かった。

決勝は10月28日、春の市民大会で準優勝した東灘区のマックエルフと、同じく3位となった兵庫区の三菱電機との間で行われたが、サッカーの原点である走るサッカーで勝ち抜いてきた三菱電機が、マックエルフの持ち味である個人技を封じ込み、見事春の雪辱を遂げると共に、初優勝を飾った。

また、3位には今大会の台風の眼となった灘区の神戸FC(C)を下した、須磨区選抜が入った。

ここ数年、多くの区で選抜制度が浸透して

きているが、選抜チームの取り組み方がまた中途半端なため、日によってチーム状態が違い、選抜チームの利点である個人の能力を活かしきっていない様だ。今後選抜チームを編成する上で、各チームの指導者にはこの点を留意してチーム作りをして貰いたい。

### 第33回市総体社会人の部結果

垂水区(選抜)	0
北区(選抜)	2
東灘区(マックエルフ)	1
長田区(アセナルFC)	0
灘区(神戸FC(C))	1
西区(川重西神戸)	2
兵庫区(三菱電機)	3
中央区(選抜)	0
須磨区(選抜)	3

10月28日、神戸総合運動公園グラウンド(見事初優勝を果たした三菱電機イレブン)



### 昭和59年度 兵庫県リーグ結果

順位	チーム名	神崎工機	三洋洲本	西淡FC	三菱神戸	神戸FC	新日鉄	明倫	市役所	日触姫路	ヤンマー	勝	敗	引	勝点
1	神崎高級工機	0-1	0-0	0-0	0-1	0-2	0-1	0-3	0-2	0-2	0-2	13	0	5	31
2	三洋電機	0-1	0-0	0-0	0-1	0-1	0-2	0-2	0-1	0-6	0-3	13	2	3	29
3	西淡FC	0-0	0-0	0-0	0-1	0-1	0-3	0-1	0-2	0-3	0-4	11	4	3	26
4	三菱神戸	0-1	0-3	0-1	0-1	0-2	0-5	0-1	0-3	0-1	0-2	7	5	6	20
5	神戸FC1970	0-2	0-4	0-1	0-0	0-1	0-4	0-3	0-2	0-3	0-4	6	8	4	16
6	新日鉄広畑	0-1	0-4	0-1	0-1	0-5	0-1	0-6	0-2	0-3	0-2	6	8	4	16
7	明倫クラブ	0-1	0-2	0-1	0-1	0-1	0-6	0-3	0-3	0-1	0-2	5	8	5	15
8	神戸市役所	0-1	0-6	0-1	0-3	0-4	0-3	0-2	0-3	0-1	0-2	5	10	3	13
9	日触姫路	0-2	0-9	0-1	0-1	0-1	0-3	0-0	0-2	0-1	0-3	5	12	1	11
10	ヤンマー尼崎	0-2	0-3	0-2	0-2	0-2	0-3	0-2	0-5	0-2	0-5	1	15	2	4

## 59年度 県リーグ 神崎高級工機無敗のV

59年度県社会人リーグは、11月18日に・後期全日程を終了し、神崎高級工機が前・後期共に土つかずの圧倒的強さで、見事初優勝を飾った。

神崎高級工機は日本リーグ経験者を多数擁した上に、今年はさらに今村、浜田の両選手をヤンマー本社から加え、チーム力がアップした。尚、2位には勝ち点2の差で三洋電機洲本が入った。

神戸勢は昨年優勝の三菱神戸が4位、今年県リーグへ復帰した神戸FCが5位に、それぞれ入ったが、神戸市役所は8位とふるわず入替戦出場となった。

これは、日本サッカー界の憲法です。何かと参考にして、協会運営がスムーズに行われますようご協力下さい。

財団法人 日本サッカー協会寄付行為

### 第4章 役員及び評議員

(役員任期) 第19条 この法人の役員は2年とし、再任を妨げない。2. 補欠又は増員により選任された役員は、前任者又は現在者の残任期間とする。3. 役員は、その任期満了後でも後任者が就任するまでは、なおその職務を行う。

(役員解任) 第20条 役員は、次の各号の一に該当するときは、理事会及び評議員会において理事現在数及び評議員現在数各々の3分の2以上の議決により役員を解任することができる。一、心身の故障のため職務の執行に堪えないと認められるとき。二、職務上の義務違反その他役員にふさわしくない行為があると認められるとき。

(役員報酬) 第21条 役員は、有給とすることができる。2. 役員報酬は理事会の議決を経て会長が定める。

(評議員の選出) 第22条 この法人には評議員47名以上62名以内を置く。2. 評議員は加盟団体が各1名を推薦するほかに、会長が学識経験者のうちから、15名以内を推薦し、理事会の承認を経て会長が任命する。3. 評議員には、第19条及び20条の規定を準用する。この場合において、これらの規定中「役員」とあるのは「評議員」と読み替えるものとする。

### 神戸市社会人運営会議予定 次回 3月14日(木)

3月22日、18時30分から王子登山研修所。社会人リーグに参加している各チームの代表者が必ず一人出席して下さい。

### 個人購読のご案内

弊紙を個人で購読ご希望の方は、1年分として70円切手12枚を同封のうえ、次のところへお申し込みください。〒650 神戸市中央区八幡通2-1-10 三木記念神戸市立スポーツ会館内 神戸市サッカー協会 ☎078-232-0753

- 有宏スポーツ** 東灘区御影本町4丁目11-9 ☎078(412)2601 阪神御影駅南側西へ30m
- 塩谷スポーツ** 兵庫区大開通7丁目5 ☎078(576)0870 バンドウ化学南
- MEN'S SHOP MAC** 三宮センター街店 ☎078(391)0895 プレジャーショップ、トアロード店 ☎078(391)0896 ドルチェマック、センター街店 ☎078(332)0141
- ヤノ運動用品** 本店 中央区三宮町3-8-1 ☎078(391)1121 ファイブ店 中央区三宮町2-7-8 ☎078(331)4578 六甲、長田、白川台、名谷、西明石、高砂、姫路、岡山
- スメラ** 湊川店 湊川プラザ2階 ☎078(511)2234 鈴蘭台店 ダイエー西側 ☎078(592)0470
- 加茂トアロード店** 中央区三宮町3-8-8 ☎078(392)0234 国鉄元町駅南側東へ100m
- マヤスポーツハウス** 灘区赤坂通7丁目5-14 ☎078(861)8143 (861)4146
- ワールドスポーツ** 東灘区深江北町4丁目7-3 ☎078(453)2186 阪神深江駅北側信号西

# 神戸のサッカー

1984 10月号  
発行所 神戸市サッカー協会  
神戸市中央区八幡通2-1-10  
三木記念神戸市立スポーツ会館内  
〒651 ☎(078)232-0753  
発行人および編集人 一北 四郎  
神戸市灘区上野通6丁目3-1 2  
〒657 ☎(078)861-3100  
毎月1回10日発行 購読料1部50円

## 第17回兵庫県少年サッカー大会 垂水SS東舞子6・西宮SC4が優勝



第17回兵庫県少年大会は、好天に恵まれた11月3日、4日の両日、神戸ポートアイランド球場に県下14代表を集め、熱戦をくりひろげた。6年生の部は、地元神戸市代表の垂水SS東舞子が西宮少年SCの猛攻にDF陣が耐えに耐えて逆襲の一発で初優勝の栄冠をつかみ、5年ぶりに神戸市へ優勝をもたらした。4年生の部は、3年連続優勝をねらう東播代表、神野SCと西宮少年SCの間で争われ、西宮SCが非願のV1を勝ちとった。

### 小6以下の部 池内決勝のシュート

▷小6以下の部決勝(11月4日、ボーアイ) 垂水SS 1 { 0-0 } 0 西宮少年SC 東舞子 { 1-0 } 0

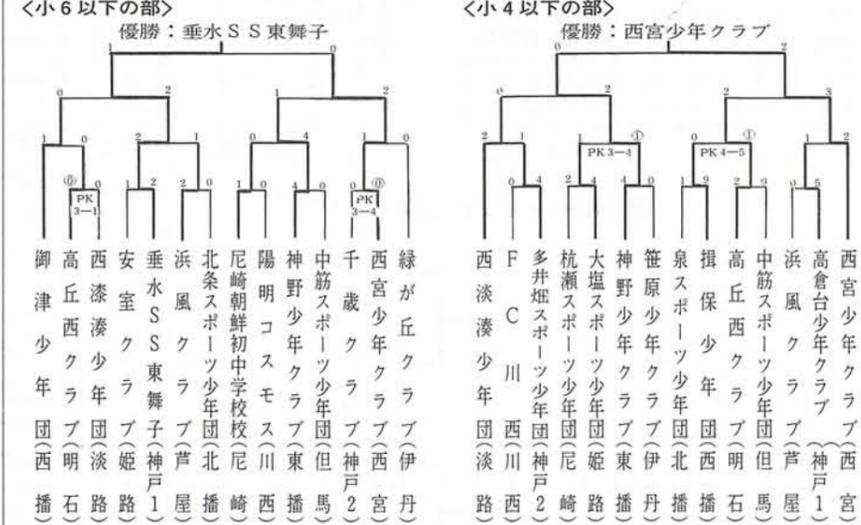
〔評〕決勝戦は優勝候補の神野SCをスピードとパワーでねじ伏せ、調子上がる西宮とひと試合づつ自信をつけて勝ち進んだ東舞子の戦いとなった。西宮は終始、東舞子陣営を脅かしながら、前半はセンターリングにタイミングが合わなかったり、ボールを持ちすぎたりして、何度も得点チャンスを逃した。後半に入っても西宮の攻撃は続くが、好守をみせた東舞子GK横野に阻まれ、ゴールを割れなかった。一方東舞子は、中盤での速く、正確な結末で西宮の攻撃をつぶすとともに、じりじりと攻めのペースをつかんでいた。チャンスになると両サイドが上がりFW白沢にボールを集めて速いテンポで攻め込んだ。このパターンでの攻撃は得点に結びつかなくとも非常に有効だった。押されっぱなしの東舞子が、終了間際、ゴール前の混戦からこぼれ球をHB池内が走り込んで好シュートを決めた。西宮の二連覇を阻止した東舞子は、白沢一人に依存した形から脱却した総合力とチームの和が、勝利をもたらしたと言えよう。惜しくも敗れた西宮SC、3位となった神野SCは、印象に残る好チームであった。なお、この両チームは12月9日、奈良県で行われた第8回関西わかやか杯に出場した。

### 小4以下の部 神野3年連続Vならず

▷小4以下の部決勝(11月4日、ボーアイ) 西宮少年SC 2 { 1-0 } 0 神野少年SC { 1-0 } 0

〔評〕西宮少年SCは、厳しいマークとボールへの執着で上まわり、チャンスを作り、終始押し気味にゲームを展開。プレー中に気どかを感じられなく、シュートにも思い切りがなかった神野少年SCは、神野本来のペースをつかめぬまま、西宮のボールを出す呼吸や、ゴール前へ走り込むタイミングの良さに、3年連続優勝を阻まれた。(少年委員門野征洋)

### 第17回兵庫県少年サッカー大会結果



### サッカー競技出場国決まる……ユニバー神戸大会 ヨーロッパから強豪集まる

神戸大会から公式種目となったサッカー競技は、出場チームを16に限定し、これをアフリカ、アジア、アメリカ、ヨーロッパの4地域に振り分け、それぞれ予選で出場チームを決定することになっていたが、アジア地域を除いて出場資格を得た国が次の様に決定した。  
▷アフリカ地域(2) アルジェリア・マダガスカル  
▷アメリカ地域(3) カナダ・アメリカ・ウルグアイ  
▷ヨーロッパ(6) フランス・ノルウェー・西ドイツ・イギリス・ソビエト・オランダ  
▷アジア(4) 予選グループ① ホンコン対韓国の勝者 予選グループ② 中国対インドの勝者 予選グループ③ 朝鮮民主主義人民共和国—北朝鮮が出場資格を得ている。 予選グループ④ イラン、クウェート、ヨルダンのうち1カ国が出場。  
以上のほか、主催国日本の計16チームによって、神戸大会は行われるが、グループ別組合わせは大会の直前になるものと見られる。(スポーツ・ジャーナル1月号より)

第6回ライオンズ杯 神戸・兵庫

1部……東舞子SS、千歳を破り県大会へ  
2部……高倉台SC、多井畑のV4を阻止  
3部……ひよどり台SC、うれしい初優勝

【評】 1部から3部まで123試合を行い、それぞれ見出しのチームが優勝した。

1部では優勝候補の千歳SC、多井畑SCが準決勝で激突、すばらしい試合をした。2点先行された千歳SCが逆転、さらに多井畑SCが追いつき、PKで千歳SCが決勝へ進出、一方東舞子SCはGKを中心、守備をかけたためカウンター攻撃で得点という戦法で勝った。

決勝戦では、個人技で勝る千歳SCが一方的に攻めるが得点できないまま後半に入り14分、東舞子のカウンター攻撃で得点を許した。チーム一丸となった東舞子SCが一回のチャンスを得点に結びつけた。すばらしい集中力である。

ベスト4には残らなかったが、準々決勝で敗れた神戸FC、みさき、ひよどり台、成徳なども着実に力をつけており、神戸市リーグ戦ではこれからさらに白熱した試合が続くものと思われる。

2部では、準決勝で千歳SCを取り、V4を目指す多井畑と、神戸FCを3-0と完勝した高倉台が対戦し、1-0で高倉台が後半決勝ゴールを上げて初優勝を果たした。

3部は、福住、ひよどり台の決勝でともに初優勝を挙げた。お互いにきびしいマークでシュートが打てなく、このまま引き分けかと思われたが、ひよどり台の粘りに根負けした福住の集中がきき、ひよどり台のシュートがネットをゆるがした。

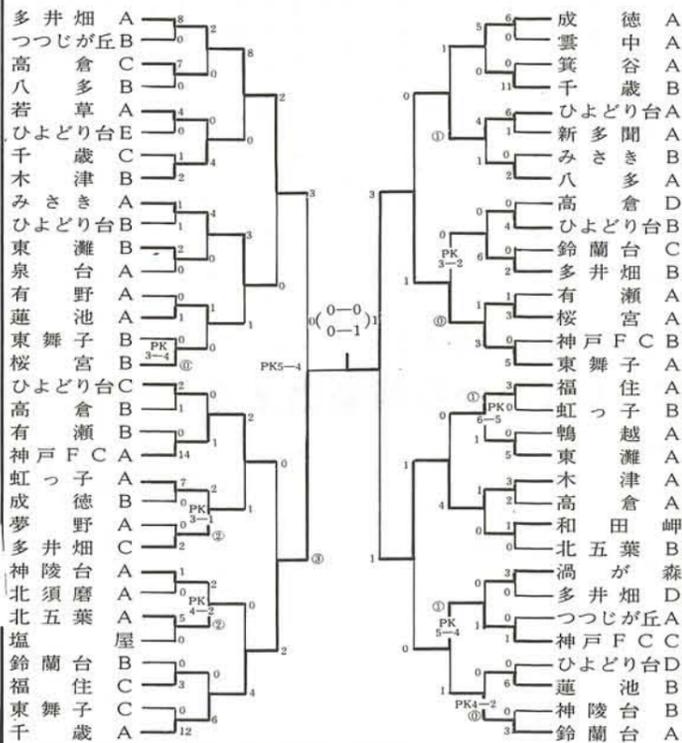
参加チームも年々増え、また新しいチームの成長もあり充実した大会だった。審判員、ならびに兵庫ライオンズクラブの方々の協力なくしては、子供たちに良い試合の経験を積ませることはできなかったことを記し、ここに紙面をかりて感謝の意を表したいと思います。

永浜 和記

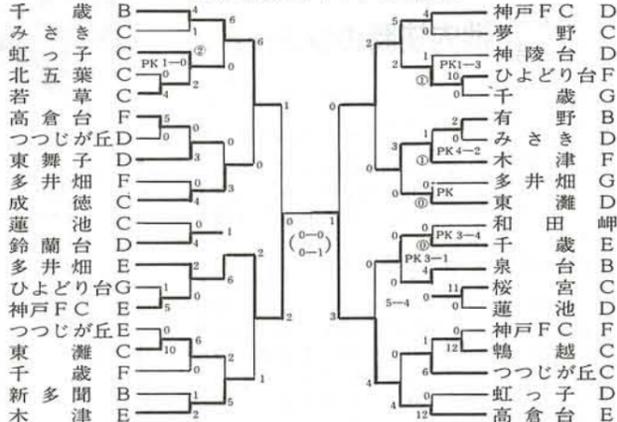


男子6年生以下の部で見事、優勝を果たした東舞子SS。希にみるべき強さとチームワークの良さを兼ね備え、どの試合にも、自分の活躍を期待したい。今後の活躍を期待したい。争奪少年大会、9月30日、神戸中央少年グラウンド

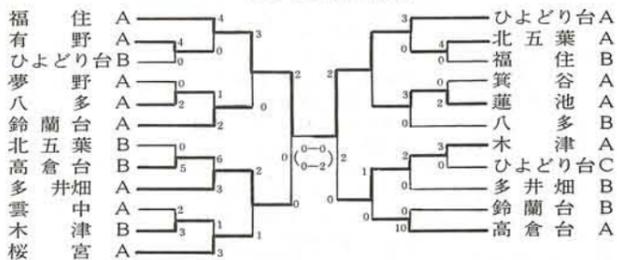
1部《男子小6年以下》結果



2部《男子小4年》以下結果



3部《女子》結果



充実のモルテンTango



株式会社モルテン 広島/東京/大阪/名古屋/福岡/札幌

日本サッカーにルネサンスは起こるか?(16)

枚方FC 近江 達

格闘技サッカーの好きな日本人。それはひょっとしたら、白兵戦を好み、特攻隊を生んだ日本軍の狂気とも通じるのではないかと。欧米の軍隊は、もっと合理的に戦った。

無知ゆえの管理か? 管理ゆえの無知か?

われわれのクラブに、よそで教育された高校生などが入ってくると、彼がどの程度にできるのか、どんなやり方をするか、サッカーの理解度はどうかなどを観察するために、しばらく黙って好きなようにやらせることにしている。

すると、最初は大人しいが、そのうちに慣れてきて、「どうやら、やりたいようにやっていたらしい」と分ってくると、いろんなことを始める。

いいプレーはまれである。持ちすぎはむしろのこと、チャンスでもないのにオーバーラップしたり、むやみやたらにヒールキックでパスしたり、とどんでん前を出て、全然担当ポジションに戻らない、攻撃ばかりで守備はしない、といった勝手気ままなプレーが多い。

いくら自由といっても、そんなプレーは困る。あくまでも正しいプレーでなければならぬ。エゴイズムはいけぬ。どんな場合でも、セオリーはセオリー、義務は義務で、それを守ってもらわないとチームプレーは成り立たない。世界中どこへ行ったって、この原理に変わりはないのである。

幼い頃からうち(枚方FC)で育った選手だと、その辺をわきまえた上で自由にプレーするのだが、外からきた選手はそこがわかってないために、自由にやれるとなると、無茶をし始める。

そんな選手でも、今までいたチームではきびしく規制され、命令されて、キチンとプレーしていたに違いない。少なくとも、そんな

自分勝手はしなかったら。

そこが管理サッカーのありがたさで、「うちでは正しくプレーできたのだから、おまへのところは甘やかすから、とたんにダメになるんだ」と言われそうである。

しかし、甘やかそうとしめつけようと、彼がセオリーに無知で、戦術的常識に欠けている事実には変りはない。

それも一人や二人ではないから、おそらくユース年令の選手のかかり多くが、母体チームから切りはなされて一人ぼっちになると、その程度のレベルでしかないだろう。まことに淋しいことである。

こういうケースの対策としては、だからこそきびしく管理して、ことごとくに指令しなければならぬ、というのが慣例と思われるが、それでは同じことの繰り返しになるだけである。

管理しないとだめ?

「選手というものは、管理しないとダメなんだ」という指導者の信念は、思いどおりのチームを作る上での管理指令の便利さと相いまって、結局選手の自立や個性、創造性などの発達を妨げ、先進国とは違う日本独特のポジションを作りあげてしまった。そして、今日の行き詰りをもたらした原因のひとつになっている。

だから、われわれは、それとは違う方向に進まねばならない。ズバリ端的に、選手の自立性、創造性などを開発し、呼びさまし、力づけ、強靱で確実なハイレベルのものに高めたい努力を早急に開始し、執拗に続けていくべきである。

どんな教育でもそうなのだが、この育成法も幼い頃から始めるのがよい。

従来教育を受けた選手が途中からわれわれのクラブに入ってきた場合、管理サッカーから解放して、自分で工夫研究するように指導するのだが、もうひとつ成果があらぬなかには、よほど徹底的に叩きこまれたのか、それとも思いこみが激しいからか、柔軟

この連載は、雑誌サッカー・ジャーナルに掲載されている枚方FCの指導者、近江達氏の随想をサッカー・ジャーナルのご好意で転載しております。

「日本サッカーの発展のためにはルネサンスにも匹敵する人間性の解放が必要である」と、近江氏はいうが……。

性に欠けているためか、どうしても自立創造のサッカーに変わることができない選手もいる。

何も知らない白紙の子供を最初から教育していく方は、問題なくスムーズにいける。

詰めこみ教育とか命令サッカーではなくて、「サッカーは、選手各自が主体性をもって、それぞれの判断工夫とアイデアによって、互いに連携し合いながら戦ってゆくスポーツなのだ」という思想に基いて子供たちを、それができるような選手に育てていけばよいのである。

これは、人間とサッカーの本質をしっかりと認識している指導者なら、大して難しいことではない。

管理しきれない4・3・3システム

スポーツは本来自発的なものである。だが今日では何事でも教育の対象にならないものはなく、スポーツもまた当然のことのように指導者がついてきかんに学習されている。

そして教育が発達すること、普及上では便利だが、必ずしもいいことばかりとは限らない。選手たちは一様に利口になるけれども、反面、肝心の自発性や野性味が薄れ、どうしても他律的になってゆく。

これはスポーツでは要注意の現象である。

たとえ学習のシステムや内容がどんなに完璧であっても、スポーツは礼儀作法や口上とは違うので、試合中、選手は教えられたとおり演ずるだけでは充分でない。好むと好まざるにかかわらず、自発的活動がプレーの本体にならないと駄目だからである。

とくにサッカーは、創造的活動がかなりできないことには、かならずある程度のレベルで向上が止ってしまう。

ところが日本の伝統的スポーツ教育は、学科同様「徹頭徹尾教こんで、そのとおりにやらせるものだ」ということになっていて、サッカーでも、指導者が最高と思うやり方を選手に叩きこんで、命令どおりに行動させる創造どころか、自発性を抑圧してかかっているのだから、伸びないのも無理はない。

現在、最もポピュラーな4-3-3システムを例にとって考えてみよう。

4-3-3の場合は、システムのままで攻撃の人数が足りないため、中盤以下の選手の攻撃参加が必要である。

そのため、全員にレベルの高い技術戦術が望まれる。行動範囲も広いほどよく、自由奔放でしかも適切なポジション・チェンジが朝飯前のできるくらいでないといけぬ。

これは4-3-3の特色でもあるが、システム自体がそうした創造的な攻守を要求しているわけで、それができないと、4-3-3は使いこなせないといっても過言ではあるまい。

筆書率いる枚方FCユースは、59年度全日本クラブユース選手権において二度目の優勝を果たした。枚方FCの勝利であった。(59年8月9日、東京読売ランド・サッカー場、決勝、対全日空横浜SCユースより) 提供サッカーマガジン



明日の栄光を勝ちとれ!



マーク33 標準小売価格 ¥8,000 markam 80年代をリードするサッカーウェア younger MONTBLANC リアルスポーツの追求 モンブラン株式会社 神戸・東京・福岡